

各委員の意見（要約）

1 文化振興における行政、文化芸術団体、企業、個人等の役割について、御意見をお書きください。

文化を創り出し享受することは、一部の余裕ある人々だけのものではなく、一人ひとりが人間らしく生きる権利の重要なエレメントであり、一人ひとりが人間らしく生きる意味を創り出し交流し支えあい、享受しあう秩序・システムでもある。その中で芸術は、そのような意味を、一人ひとりの生きる根源にまで下りた次元で、手あかにまみれた意味秩序を清新に創り出し・作りかえる営みである。文化・芸術振興は、社会の余剰的次元の振興から、社会の根幹に座る次元の振興へと変わらねばならない。それは、従来の狭義に理解された文化・芸術の範囲を大きく超えて、全社会の必須のエレメントとしてとらえ返されながらその振興が図られるべき時代を迎えようとしている。

その大きな枠組みや土壌を作り文化芸術をはぐくむ基盤をシステムレベルで用意する立場にある行政の文化政策は、かつてない重要性をもつ。文化政策の成否は行政全体の水準や質を問う意義をも獲得するようになっていきます。その点で、千葉県は、文化振興に関しても県民の参加の方向に大きく先進的に踏み出してきており、その一層の進展と、さらに文化振興そのものの深化が期待されていると考えられる。

文化振興の問題は、産業の在り方とも深く結び付いており、狭義の企業による文化支援にとどまらず、企業活動全体が文化的・創造的性格を確保できるかどうかが決定的な重要性をもつ。そうした企業の展開が創造的活力の源として、行政にも重要。

個人は、文化を作り文化を享受し、コミュニケーションを密にして文化の担い手として生き、そしてそのこと自体が一人一人の生きる力を高める。一人ひとりが、文化を享受するだけでなく、創造する主体として尊重され、その文化的な営みの場や機会や条件を豊かに確保できる県の中で、その可能性をさらに大きく開くことが期待される。

全日本的、全世界的に発信力をもった芸術文化の担い手が、千葉に多く集い、千葉から直接世界に向けて文化発信できるということが、県の文化芸術の質の高さや活力に決定的な力を発揮する。こうした個人を大切にする仕組みを千葉に作る必要がある。

芸術文化諸組織は大きな役割を果たしてきたが、従来からのものに限られぬ多様な姿をとるようになっている。多様な芸術文化諸組織の生き生きとした展開が可能となる県の文化振興策が求められている。

個人では限界がある。子供を預かる教育現場との連携も必要。

行政、文化芸術団体やアーティスト、企業、大学や研究機関、産業の団体や個人、NPO 等が協働してグランドデザインを描き、推進するためのタイムテーブルを作成し、都度検証と補正を行う場が必要。

文化の継続・継承・向上発展には組織的な母体が必要。行政や企業等の支援が望まれる。

市民団体の協力・支援・ネットワークの充実を図り、自立できる方法や環境づくりの構築に、行政が先導的な役割を果たすことが必要。

文化には「見ることのできる文化」と、「見えない文化」の二つがあり、行政は、とかく催しものや展示などの、「見ることのできる文化」を重視し、建物の数と動員数でその成果を計測したりすることが多く、「見えない文化」に関しては、定量的な把握が容易でないため、見逃しする傾向があるように思う。

「見えない文化」も、人々による学問の蓄積や、伝統文化の継承があってこそ。「見ることのできる文化」を支えているのが、「見えない文化」であり、文化力とは「見えない文化」の層の厚さにあることを、常に認識し、文化振興を考える必要がある。

文化振興は、市民が主体となり、市民、事業者及び市が各々の役割を果たしつつ互いに補い合い、協働して取り組む必要がある。市民の発意を尊重し、誰もが等しく文化活動に参加できる環境を整える必要があり、行政はその手助けをする役割。

文化芸術団体はできるかぎり多くの人たちとの連携と広がりを求めるよう努力しなければならないと思う。行政に何かをやってもらうという姿勢だけでなく主体的な活動を行うと共に、既存団体を維持するだけでなく、新しい視点で組織作りを考えなければ発展性はない。

企業も、地域での文化振興がまちの活性化につながることを鑑み、文化振興には積極的に関わる必要があり、企業の社会貢献活動の一環として取り組む必要がある。

いつでもどこでも個人が文化活動に気軽に参加できるような体制づくりが必要。

行政は、文化振興政策と明確なミッションを持つとともに、ガバナンスを持って文化マネジメントを行うことが肝要。

・文化芸術団体は、それぞれの独自性を大切にしながら、市民活動を活発に展開し、県民に支持される団体として、文化振興の中核として地域に活力を生み出すように事業展開を図る。

・企業は「21世紀は文化芸術の世紀」に相応しく、地域の文化活動と連携・協力し、文化への社会投資が都市の競争力、産業の進展に繋がるように図る。

・個人は、一人十色といわれる多様性の時代に積極的に芸術文化活動に参加し、優れたオーディエンスとして文化芸術を享受するとともに活動を支援する。

以上の三者は文化的な千葉県発展のため、相互理解を図るとともに4つの汗を流し、実現に努力する。4つとは次のとおり。

相互理解、 国や県の風格を上げる、 事業の創出、 観光と交流

この4つのために文化芸術は働く。

これからの博物館には、資料収集保管、調査研究、展示公開という博物館活動の基盤を強化したうえで、市民との交流、参画、連携する学習支援機関としての役割の充実が求められている。

2 文化を支える人材育成について、御意見をお書きください。

子どもの文化芸術的育成が重要。学校教育はもちろん、学校と美術館・博物館、学校と地域の連携や、学校を巻き込んだ文化振興システムの新しい形態が、創意をもって探られる必要がある。芸術文化系 NPO などの試みが、新しい可能性を開くことが期待される。

若者の文化は、文化芸術振興とは異質に考えられがちだったが、若者こそ、その生きる力も生きる悩みも深い、現在および未来の文化を支え創り出す中心者であるということを踏まえ、若者の文化的人材としての育成が大切にされる必要がある。

芸術文化をリードし発信力をもつ人々が、千葉から生まれ千葉で育ち、千葉にさらなるエネルギーを引き寄せていくという観点からの人材育成は、特定分野を除くと不十分。長期的展望に立ち大胆な新しい人材育成のプランが立てられ、展開されることを期待。

コーディネイター、ディレクターなど、文化を作る場や機会を組織し、人々をつなぎ、人々の力を発現させるカタリストとなる人の育成が必要。このような人がたくさん生まれ、育つための条件を開いていくことが大切。

底辺である子供への働きかけ（地域で、学校現場で）を大切にしたい。各種の体験教室をより多く広く。「地域の子供を育てる」

アートマネージャー育成の必要性が言われている。地域の文化振興のための総合的なデザインを描くことのできるアートプロデューサーやアートプランナーの育成も急務。しがらみにとらわれず自由な発想ができる人、その人を専門的な知識でサポートしていく体制と大胆な権限委譲が不可欠。人材育成においては、狭義の芸術文化にとらわれず、スポーツ、環境、福祉、教育といった総合的な文化をデザインする視点が必要。

「佐原の大祭」は、町内や地区のコミュニティを支える重要な柱。祭りには多くの見物客が訪れ、見られることが励みとなって技能や郷土愛が高まり、後継者育成にもつながる。郊外の農村部の伝統文化や行事は、人口減少により継承が危ぶまれ、地域を支えるコミュニティの崩壊にもつながる心配がある。地域を支えるのは市町村の役割だが、県も伝統文化の公開や発表等あらゆる機会を捉えて支援することが望まれる。

どのような人材が、今、必要とされているのかを、分析することが重要。企業と結びついた人材について考えるのも良い方法。

文化を支える人材については、専門性、継続性が要求されるが、行政においては、学芸員や専門スタッフの人事異動や定年などの問題が支障となることもある。市川市では、文化専門ボランティアの制度を作り、養成研修を終了後、希望者登録し、美術、音楽、文芸の部門ごとに自主的な文化企画を行ってもらっている。

中長期的にはローティーン（幼・小・中・高校）の時代に、文化芸術の海に投げ込んで体験させることが肝要。自分の眼で観て体験して、自分の心で感動して、自分の頭で考えるクリエイティブな若者の育成が今の日本に必要。学校教育をはじめとする機関の意識改革を図る必要がある。高齢者の文化活動を推進し、同時に支援を図る。

優れた指導者を養成し、地域格差を少なくし幅広い文化芸術活動の振興、支援を図る必要がある。

博物館に期待される役割は、多様化・高度化・専門分化しており、これらの役割すべてを学芸員をはじめとする職員が担うことには、おのずと限界がある。したがって、博物館活動を支える人材の活躍の場を積極的に提供していく必要があり、これらの人材に活動の一翼を担ってもらえるような体制づくりを目指すとともに、そうしたマネジメント能力が重要となっている。

3 「ちば文化」をどのように発信すべきか、御意見をお書きください。

東京の隣にありながら、農山漁業も工業も地場産業も盛んで、多様で広大な県土をもち、伝承文化も豊かな千葉は、これらの特徴に見合った多様性・複合性を備えた文化発信ができる。地域ごとの特質をしっかりと活かした文化をはぐくみ、その質と多様さで、この地に生活する者の生きる力を高めるとともに、他地域の人々を引き寄せる魅力を発揮することが大切。そのためにも、地域に密着したコーディネートなどの活動が重要。

千葉からどのように、エクサレントな芸術を発信していくか、長期的なしっかりした展望をもつことが喫緊の課題。

都市と農（山漁）村の落差を認識するのが私にとってのちば第一印象でした。ひと昔前に比べて随分魅力的な県になった。地域の祭りや文化財とおいしい食事を合わせたツアーなど、中高年には魅力的。車社会とはいえ、鉄道の連絡の悪さには困ります。

「ちば文化」とは何を指すのかを明確に表すことは難しい。敢えていうならば、千葉県における文化芸術振興に関する支援のための環境整備に関する姿勢と具体的な施策を明確にし、内外にアピールすること。

博物館が行っている出前事業や資料の貸出し事業は、学校教育との連携や専門的知識を子供たちが経験できるよい機会となり評価できる。また、県民芸術劇場も「ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉」の存在を県民に知らせるよい機会となっている。

「とにかく、すぐ活動するちば」をアピールしてほしい。

千葉には貴重な文化資源と文化活動を担う人材が多くいることを整理して、足元にある魅力を掘り起こし、県民にその魅力を感じてもらう必要がある。そのことにより県民一人一人に住んでよかった「ちば」を実感してもらおう。こうしたことを踏まえた各地域でのイベントの開催、広報PR活動の充実を図る必要がある。

市民・県民がまず千葉県の芸術家・文化人の活動を知ることが大切。そして、彼らへの尊敬と誇りが持てるように、きめ細かい情報発信を効果的に行うことである。

伝統的な文化財など、歴史と文化の価値をさらに周知する。

さまざまな公演、展覧会、講演会、フォーラムなどを積極的に展開して、千葉県の文化を発信する。そのために、県は全面的に支援する必要がある。

4 その他、千葉県における文化芸術を取り巻く「現状」及び「課題」について、自由に御意見をお書きください。

東京・神奈川・埼玉に比べ、芸術文化の発信力が弱いように思う。県の文化政策を、飛躍的に力が入ったものとして、大きく展開することが求められる。実際に文化戦略を展開する執行権と財政的基盤と文化の専門的知見と文化推進の力量を併せ持った組織が、県内のさまざまな文化拠点とネットワークを結び、そのネットワークから全県的な文化のうねりがおきてくるという体制などを創り出すことはできないものか。

教育現場での文化芸術に係る特別教育活動に対する理解と支援を、各市町村教育委員会や学校の管理職がさらに積極的に行ってほしい。

プロのオーケストラがあるとははじめて知った。青少年オケの盛んなことは知っていたが。

首都圏に位置し、各地域の産業構造、住民意識が多様であるため、地域における文化芸術において伝統文化も異なり、住民の求めるものも多様であるのが現状であると認識している。文化芸術の振興のための施策を立案する上で、住民を主体とする地域を構成するすべてのセクターが主体的に参加していく体制づくりが必要。

都市部と過疎地では、文化を享受できる環境に違いがあり、特に子供たちが本物の文化芸術に触れる機会が少ないことを危惧している。子供たちが、発達段階に応じて優れた芸術鑑賞の機会を設け、感動できるような事業を積極的に行うべき。また、自ら芸術文化に親しみ、参加できる環境づくりをすることも重要。

「町並みは元気がないと残せない」建物や景観を保存するには、適時適切な修理・修景を施すことが重要で、資金も要る。行政や企業等の下支えをお願いしたい。

公民館や文化会館などの高齢者の使用が増えている。高齢者の方々の勉強や芸術への意欲に驚かされます。少子高齢化社会をむかえている現在、高齢者のパワーを文化のうねりに結びつけ、若者や子供たちと一体化した活動へと広げていくことが、よい結果を生むと考える。千葉県は東京に隣接し、千葉の文化としてのアイデンティティが希薄になりがちで、県民もほんものの文化を東京に求める傾向がある。そのためには、千葉ならではの魅力を再認識し、それをわかり易く発信していかなければならないと思う。

県政の重要な柱として文化芸術を位置づけられているのかどうかという点で、他県に比して文化立県として卓抜した文化県・創造都市として認識されるほどの誇れる現状であってほしい。人材はかなりいる県だと思うが、後継者育成の課題は常にある。

優れた文化施設、文化拠点の全県的な配置を再考することも課題である。定年後、県民がこの県に住み続けたいと思うような文化環境の整備が重要な課題である。

5 個別照会事項への各委員からの意見

(より多くの住民が世代を超えて自主的に文化活動に参加するために、行政や文化施設に求められることについて)

諸施設が、さらに文化的可能性を開く役割を強めるとともに、多様な文化主体の形成・展開できるようなインフラと財政的援助、人的支援、インセンティブ、必要なネットワーク構築などを図る必要がある(例：廃校や廃工場などの活用)。

施設にパイロットプログラムのようなものを立ち上げ、それを推進力にし、次第にその周辺に新たな動きを作るなどを構想することも効果的。

障害の有無、年齢層、人種や国籍などを超えた広範な人々が参加できるよう、きめ細かい配慮ができる体制や人材を配置することが大切。

(児童生徒をはじめとした、県民の文化芸術活動について)

学校教育の中のクラブ活動は、児童生徒の自発的参加の場であり、文化芸術に対する理解と意欲を高める絶好の機会。指導者や児童生徒に十分な配慮と支援が必要。

(地域の伝統芸能の保存・継承について)

地域の民俗芸能は、地元での公開が望ましいが、舞台でも機会があることが必須。
各伝承母体の連合体などで情報・意見交換できる場(学校教育、行政も巻き込んで)の設置。

(企業メセナ活動について(メセナ活動の周知や行政に期待することなど))

企業を含む各セクターがネットワークを構築し、持てる力を出し合って協働し、補完し合う体制づくり。
企業メセナ活動も、NPO との協働や非資金的なメセナなど、形態が多様化。新たな「ちばモデル」の開発を期待。

(地域の「文化資源」を観光やまちづくりにどう活かしていくか、また行政とNPOの協働について)

国の重要伝統的建造物群保存地区の建物でも、個人の所有物で、行政の権限が及ばない部分もある。この調整を図り、官民一体の活動を推進する役がNPO 法人等の役割。
行政、NPO 法人等の関係機関が、特性や有利性を活かして柔軟かつ効率的に連携・協働を図ることが肝心。

(高齢者をはじめとした、県民の文化芸術活動について(生涯大学校での指導の御経験などをもとに))

生涯学習の卒業生が、学習意欲を継続。
新しい建造物を造るのではなく、既存の建物を用いてニーズに応える方法はないか。

(公立文化会館に求められる役割や活用方法)

文化施設の管理だけでなく、行政区域の文化振興に係わるセンター組織として、機能の拡充、文化芸術の普及及び向上等の事業の推進、人材育成、助成金の交付等により市民の各種文化活動を支援を行う。
地域の文化活動団体やNPO などへの支援、他の文化施設との一層の連携。

(文化行政における県と市町村の役割分担)

県は各市町村の活動を行っているかをリアルタイムに把握し、その情報の共有化を図り、定期的な文化担当会議(行政のみでなく文化振興財団や文化施設の指定管理者、NPO や文化団体も一同に会するもの)等を行うべき。

(博物館に求められる役割や活用方法について(先進事例、地域の活性化に生かす方策など))

博物館の強みは、資料を収集し保管していること。それに伴う調査研究の成果を生かし、多様化かつ高度化する県民の知的欲求に応え、自主的な研究活動やボランティア活動など、自己表現の場としての機能を高め、県民とのコミュニケーションを活性化していく役割が求められている。
博物館には地域振興や観光振興といった役割も期待されており、これらの役割も展示や様々な方法を用いて、教育・学術・文化の振興に資するという博物館の中核的役割を基盤として果たしていくことが必要である。